

学校法人常磐大学 広報誌 TOKIWA POST [トボス]

Topos

vol.78

Feb. 2016

世界にトビタテ！
常磐の学生たち！

「特集」



の学生たち!



2014年度からスタートした官民協働で取り組む海外留学支援制度です。

「トビタテ! 留学JAPAN～日本代表プログラム～」は文部科学省が2014年度から開始した留学促進キャンペーンです。2020年までの7年間で約1万人の高校生、大学生を派遣留学生として送り出す計画で、交換留学などだけでなく、インターンシップやボランティア、フィールドワークなどの多様な活動を支援する点や、手厚い奨学金・渡航費・授業料などが給付される点など、これまでの留学支援に比べ、多くのメリットがあります。帰国後は海外体験の魅力を伝えるエヴァンジェリスト(伝道師)として日本全体の留学機運を高めることに貢献することが期待されています。

★トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラムの学習プロセス★

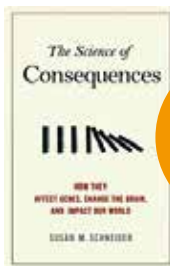


留 学 前



「トビタテ! 留学JAPAN」を知り 大きなチャンスと思って応募

高校時代、米国ボストンの高校へ交換留学を経験。留学にはずっと関心があり、大学院で国際学会に参加したことで留学意欲が再燃しました。スーザン・シュナイダー先生の助言を受けながら先生の著書を翻訳するとともに、被害者支援が進むアメリカで、DV被害者支援のボランティアを体験するには、自由に活動が組み立てられる「トビタテ! 留学JAPAN」のプログラムが最適でした。英語スキルに自信がなくても応募でき、給付型の奨学金が得られることもあり、大きなチャンスだと思って応募しました。



シュナイダー先生の著書
「The Science of Consequences」

期待の大きさを知った 留学前の事前研修

審査に合格したポイントは、海外でどのような活動を行うか、その計画が明確だったことにあると思っています。採用が決まった後の事前研修では他大学の学生との交流や「自分の軸」を考える機会が得られます。出資している企業や文部科学省のプロジェクトチームによるグローバルコミュニティの一員になる自覚が促され、1期生ということもあって、期待の大きさを受け止めた研修でした。



事前研修で、同期の仲間と

先輩たちの 体験談 01



長谷川 福子

常磐大学大学院 人間科学研究科 人間科学専攻
博士課程(後期)3年

コース

「世界トップレベル大学等コース」

留学先・留学期間

アメリカ [2014年9月～2015年8月]

留学計画概要

- 語学力向上 … 語学学校で学術的な英語を学習
- 研究室訪問 … 留学先や近隣大学の研究室を直接訪問
- 著書翻訳 … シュナイダー先生の著書を翻訳
- ボランティア … 資格をとり支援活動を行う
- 心理学実験 … フロリダ国際大学で研究・実験

世界にトビタテ！ 常磐

常磐大学・常磐短期大学では、「トビタテ！ 留学JAPAN」の制度を利用して海外留学に挑戦する学生を応援しています。このプログラムは、留学計画を自分で自由に組み立てられることが特徴。日本と異なる社会を、自分で見て、体験して、そこで生活している人々の思いを共有できるまたとないチャンスです。

留学計画のポイントや成長ぶりを第1期の長谷川さん、第2期の木下さん、第3期の長山さんの活動を通してご紹介します。



留 学 中

留 学



出 発



Schedule

主な滞在先

2014年 9月～12月
カリフォルニア大学デービス校

2014年 12月～2015年 4月
My Sister's House (ボランティア)

2015年 4月～8月
フロリダ国際大学

シュナイダー先生の助言を仰ぎながら、著書の翻訳に取り組む

カリフォルニア大学デービス校では計画通り語学の授業を受講し、研究者として欠かせないアカデミックな英語ライティングの方法を重点的に学びました。パシフィック大学客員教授のシュナイダー先生とは、以前国際学会で知り合い、Eメールなどで、今回の留学の件もお知らせしていました。著書の翻訳にご協力いただくだけでなく、先生からはその場の状況に合わせた柔軟な姿勢を学びました。とてもおらかな方で、研究者としての厳格さと柔らかな人柄に触れ、私も異なる環境や文化を臨機応変に受け入れる柔軟さを持つようとなりました。



ご協力いただいたシュナイダー先生と

NPO団体の認定を受け、ボランティア活動に参加

留学中盤は、翻訳作業を続けながら、NPO団体「My Sister's House」でDV被害を受けた女性や子どもへの支援活動に従事しました。カリフォルニア州ではボランティアを行う際に40時間以上のトレーニングを受ける必要があるため、このトレーニングに参加。修了証を得てボランティア団体の活動にかかわりながら、被害女性が生活力を得るための自立支援講座を提供するなど、日本の支援との違いをいくつも見出し、今後、日本でボランティアを続けるにあたって、とても有意義な体験をすることができました。



トレーニング修了証を得て認定メンバーに

フロリダ国際大学で心理学実験を実施

私の研究テーマである「愛着」について、アメリカでも実験研究を行いたいと考えていたところ、シュナイダー先生の共同研究者であり、動物を使用した愛着研究の第一人者でもあるロバート・リックリター先生をご紹介いただき、フロリダ国際大学での心理学実験に携わるチャンスを得ました。そこで留学後半はフロリダ州に拠点を移し、フロリダ国際大学に訪問研究員として在籍しながら、動物を用いた心理学実験を実施しました。知り合いが一人もいない環境の中で自分の存在意義をアピールできたことは大きな自信になりました。



動物を用いた実験研究を実施

常磐大学や他大学で留学報告会を実施

帰国後は、まず常磐大学で留学報告会を行いました。何人かの学生が「自分も挑戦してみたくなった」と感想を述べてくれ、手応えを感じました。また、他大学の報告会にも参加し、研究の講演も行ったところ、活動に興味を示してもらえたようです。博士課程の院生ということで、学部生とは距離があるとは思いますが、エヴァンジェリストとして貢献できたかなと思います。

所属する研究会ではさまざまな職種の方に周知

所属する研究会でも報告会を行いました。この研究会には地域の特別支援教育にかかわる方々や専門学校先生、臨床心理士などが参加しているため、これらの方々が所属する学校にもどり、子どもたちのかかわりの中で「給付型の奨学金を受け、海外で夢をかなえられること」「有意義な出会いがあり成長できること」を伝えていただこうと思っています。

人生の選択に自信を得た約1年の留学、 行動することゝが大事だと再認識しました

留学計画の大きな柱だったシュナイター先生の著書の翻訳は、すでに終了し、誤字脱字の確認を行いました。留学を振り返って思うのは、飛び込む前の不安が大きければ大きいほど、それを達成したり、問題なく乗り越えたときの自信が大きくなるということです。研究室や研究所を訪問する際、人脈がなくても研究への興味関心を示すことで、温かく迎えてもらえたことに感謝しています。約半年間お世話になったホームステイ先では、金曜日の夜、家族全員で映画を見るムービーナイトや週末のバーベキューなど、課題に追われていても必ず参加するように言われ、家族のきずなを深めることの大切さを学びました。10歳の男の子には、英語を教わったり一緒に遊んだり、とても親しく過ごしたので、別れるときは涙があふれました。フロリダ国際大学では心理学実験をするかたわら、日本語クラスのティーチングアシスタントに就き、日本を紹介することもできました。もちろん楽しいことばかりではありません。コミュニケーション不足から、借りていたアパートを追い出されそうになったり、断ったつもりがイエスと言ったことになっていたり、すれ

違いもありましたが、おかげで、意思表示を物おしせず伝える度胸や、思いがけない事態に対処する方法を身につけることができました。留学先で覚えた言葉に「To be or not to be」(臨機応変に対応する)という慣用句があります。何かを行うとき「To be or not to be」(楽しむ気持ちを忘れないようにすれば、苦勞も乗り越えられるのではないかと思います。今回の留学で、私は自分の選択に自信を持てるようになりました。留学は世界への距離を縮め、異文化を受け入れることで人間としてのキャパシティも広がってくれ、さらに日本を客観的に見ることを可能にしてくれる貴重な体験です。人生の選択を増やすためにも、留学をはじめいろいろな経験を求めて飛び込むことをおすすめします。



国際交流語学学習センターが 「トビタテ! 留学JAPAN」を勧める理由

「トビタテ! 留学JAPAN」は返済不要の奨学金で海外に挑戦できるまたとないチャンスが得られるプログラムです。応募に際しては、自分の関心や興味を軸に、留学先や活動内容について、具体的に計画する作業を「強いられる」ため、海外体験と将来のキャリアを結び付けて考える機会となります。また、計画には「実践的な体験」を含むことが必須であり、日本と異なる社会で生活している人々の喜びや困難に触れることで、グローバル化が進む時代に不可欠な「コミュニケーション能力」が磨かれ、それは一生ものの財産になることでしょう。目的にかなった実践的な体験を実現するためには、受け入れ先となる機関の情報を自ら収集し、受け入れを依頼する必要があります。その際に、社会(企業やNGO)と接し、交渉する経験を積むことは就職活動の準備としても有効でしょう。「トビタテ生」ネットワークの一員となり、他大学の学生との交流が世界中に広がることも大きな魅力です。

「トビタテ! 留学JAPAN」に 挑戦しましょう!

FAQ

Q. 通常の留学とは、どう違うのですか?

A. ボランティア、インターン、フィールドワークなどの実践活動を伴う計画が必要とされ、留学終了時の「目標達成の指標」と「成果(アウトプット)」が明確に求められることが大きな違いです。

Q. 留学プランを立てる際や応募書類を作成する際の留意点を教えてください。

A. 自分のキャリアプランだけでなく、留学を通して体験し、得たことを、どう社会に還元するかまで視野に入れたストーリーを具体的に描くことが大事です。

Q. トビタテ留学の目標をどう立てればいいのか、悩んでいます。

A. 留学やキャリアプランの目標は、突然の思い付きでなく、これまで自分が取り組んだこと、乗り越えてきた課題など、「個」の原体験から導かれていることが必要です。

詳しくは国際交流語学学習センターにご相談ください

先輩たちの
体験談 **02**
ただいま留学中

現在の達成度

タイ語が理解でき、積極的に会話する姿勢が生まれた

経済面、教育面で課題を抱えるタイの山岳民族の暮らしを知り、日本の子どもたちと山岳民族の子どもたちが作った絵本を互いに交換することができたら、海を越えたつながりを感じてもらえると思ったことがプロジェクトの発端でした。山岳民族の村で絵本を作成するという目的のため、留学前半は、チェンマイ・ラジャバット大学で英語とタイ語を学びました。日常生活の会話は十分理解できるようになり、自分から積極的にコミュニケーションする姿勢が身についたことは留学の成果です。村の子どもたちと通訳を介さずに会話したいと思い、現在もタイ語の勉強に努めています。



今後の計画

山岳民族の村で、子どもたちと絵本作りにチャレンジ

NGOミラー財団では山岳民族の村で、日本の学童保育施設で読み聞かせをしている経験を生かし、紙芝居や音読を取り入れた日本語の授業を担当します。「こども絵本プロジェクト」では子どもたちの生活や彼らが抱えている問題を直接調べ、異文化理解の教材にもなる絵本を現地の子どもたちと作って、日本の学童保育の子どもたちが作った絵本と交換し、双方向のコミュニケーションを図ります。日本の子どもたちにとっても、世界に新しい友だちができ、人と人のつながりが異国にも広がっていく体験は、グローバル社会を実感する貴重な機会になると思っています。



木下 夏穂

常磐大学 国際学部英米語学科3年

テーマ

「トビタツ絵本!」

こども絵本プロジェクトからつながる国際社会貢献の輪

留学先・留学期間

タイ [2015年8月~2016年3月]

留学計画概要

- 語学力向上 ... 大学の授業で英語力を強化。ホームステイや課外活動で実践的なタイ語を習得
- NGOミラー財団の活動 ... 山岳民族の子どもたちを支援
- 「こども絵本プロジェクト」 ... 日本と世界の橋渡しを行う

先輩たちの
体験談 **03**
ただいま留学中

現在の達成度

日本語授業のアシスタントを経験、タイの伝統舞踊にも参加

2年次に常磐大学の国際交流会館でアメリカ人の学生とルームシェアし、互いに言葉を教え合う楽しさを知ってから、日本語教師になりたいと思うようになりました。最初の留学先であるタイのチェンマイ・ラジャバット大学では日本語学科の授業にアシスタントとして参加。教育実習の経験が役立ち、緊張せず人前で説明したり、板書することができました。「Nippon 縁 Joy」のグループ活動も始動させ、参加した学生は日本語や日本文化を楽しく学んでくれたと感じています。タイの伝統舞踊を始めた際はメンバーに英語話者がおらず、意思疎通に苦労しましたが、練習するうちに自然に仲良くなり、人がつながるのは言葉だけではないと知ったことも留学の成果の一つです。



今後の計画

南米に渡り、現地の日本語学校で授業の補助

留学後半は南米ペルーに渡り、日本語学校で日本語の授業補助を行う予定です。また、タイ留学中に立ち上げたFacebookのグループには40人ほどタイの学生が集まり、ペルーの学生と会話をするのを楽しみにしているので、グループの拡大も計画しています。ペルーでも、日本語学習者が日本のどのようなテーマに関心を持っているか調べ、Web版「Nippon 縁 Joy」での情報発信に活用したいと思っています。そのためにも、スペイン語の習得が欠かせないことから、リマにある大学附属の語学学校へも通う予定です。またクスコにある日本語学校にも短期訪問できそうなので楽しみです。将来は、日本語を学ぶ魅力をしっかり発信していける教師になりたいです。



長山 達見

常磐大学 国際学部英米語学科4年

テーマ

「Nippon 縁 Joy」

世界の日本語学習者をサポートし日本とつなぐプロジェクト

留学先・留学期間

タイ [2015年8月~12月]
ペルー [2016年1月~3月]

留学計画概要

- Web版「Nippon 縁 Joy」の創設 ... まずはタイとペルーの日本語学習グループを作り、双方向をつなぐ
- 日本語学習者の調査 ... 学習動機や関心領域を調査し、指導に役立てる
- 語学力の向上 ... タイ語・スペイン語と日本語の違いや共通点を学び、指導に役立てる

News and Topics

学生、生徒、園児たちは日々学び、経験し、成長を続けています。
このページでは学校法人常磐大学の各学校の取り組みやイベントの様子をはじめ、
日々の活動とその成果をお知らせします。

高校

2015年度クラスマッチを開催。 多くの方から応援をいただきました。

9月3日、4日の両日、石岡運動公園にてクラスマッチを開催しました。開会宣言は陸上競技場で行われ、1日目はリレー(男女)、サッカー(男子)、バレーボール(女子)。2日目はバスケットボール(男子)、ドッチボール(女子)、チームジャンプ(大縄飛び・男女)を開催。各クラス趣向を凝らしたそろいのTシャツに身を包み、全力で臨み、全力で応援する姿が見られました。当日の朝そして帰りには、さまざまな部活に所属している生徒が準備や片付けを行い、気持ち良く競技することができました。また、閉会式では総合優勝したクラスに対して、生徒たちが学年やクラスを越え、称賛を送っていました。今年度のクラスマッチには、多くの保護者の皆さまにも観戦にお越しいただきました。



幼稚園

ハンドベルの音色や留学生の歌声にのせて 一足早いクリスマスを満喫しました。

12月15日、子どもたちが何日も前から楽しみにしていたクリスマスお楽しみ会を開催しました。今回はいつも楽しいリズム遊びを紹介してくれる短期大学の鈴木範之先生と「TOKIWA HANDBELL CHOIR」の学生たちが、クリスマスにピッタリな音色のハンドベルコンサートを開いてくれました。クリスマスソングやディズニーの名曲に加え、ベル演奏の技法も紹介していただき、透き通ったベルの音やリズムに子どもたちはうっとり癒やされました。また、海外から常磐大学に留学している学生たち13名が、サンタさんと一緒に登場し、英語の歌のプレゼントを贈りました。サンタさんへ子どもたちからの質問コーナーの後、部屋にサンタさんからのプレゼントが届いていてビックリ！一足早いクリスマスを満喫しました。



大学・短大

第1回となる英語プレゼンテーション・イベント 「TOKIWA SPIRIT」を開催。

11月24日、第1回となる常磐大学・常磐短期大学生による英語プレゼンテーション・イベント「TOKIWA SPIRIT」を開催しました。これは、学生が学内での学びや学外での体験について英語で発信することで、コミュニケーション力や語学力を向上させることが目的です。国際学部の学生だけでなく、人間科学部やコミュニティ振興学部の学生などが参加し、海外留学やボランティアの体験、ゼミの研究内容など多彩な発表が行われました。会場の投票でプレゼンテーション・アワードに選ばれたのは、イギリスへの海外研修の経験を語った人間科学部コミュニケーション学科3年の植木真妃さん。植木さんは、「将来、英語を使う機会があると思うので、この経験を生かしたい」と受賞の喜びと将来への意気込みを語ってくれました。





短大

2015年度幼教フェスタを開催。 学んできた成果を存分に発揮しました。

12月20日、本学体育館において、毎年恒例の幼教フェスタが開催され、短期大学幼児教育保育学科の学生たちによる、課題研究の展示発表と、ハンドベル演奏・ダンス・演劇・合唱などのステージ発表が行われました。展示スペースには、年間の活動内容をまとめたポスター発表や、教材研究の一環で作成した作品などが設置されました。また、次々と披露されるステージのプログラムでは、これまで練習してきた成果が存分に発揮されるとともに、ステージの転換や、グループの入れ替えなどが非常にスムーズに行われ、学生たちの気配りや協働する力の成長を感じました。フィナーレは、参加者全員によるクリスマスソングの大合唱で、会場はクリスマスムード一色に包まれました。

幼児教育保育学科のホームカミングデーを開催。 楽しい会話とクイズで盛り上がりました。

同日、本学T棟学生ホールにおいて、短期大学幼児教育保育学科2013・2014年度卒業生を対象としたホームカミングデーを開催しました。このイベントは、卒業生が教員や友人たちと旧交を温め、それぞれの近況を語り合うことで、情報交換の場としても活用されています。久しぶりに会う友人や先生方と、学生時代の思い出や現在の仕事の話題などで大変盛り上がり、余興の〇×クイズ大会では、それぞれの先生方から出題された幼児教育にかかわる問題に対して、皆さん熱心に解答していました。短い時間ではありましたが、学生時代を振り返り、また明日からの活力につながる有意義な時間となりました。



智学館

「智学館フェスティバル2015」を開催。 4回目の今回も熱く盛り上がりました。

9月13日に開催した「智学館フェスティバル2015」で、生徒たちは47の団体に分かれ、舞台・展示・模擬店の各部門で大活躍しました。智学館フェスティバルは、2年に1度の催しで、ダンスや演劇、器楽演奏、和太鼓演奏など迫力のある舞台発表、バラエティに富んだ模擬店や迷路などの楽しい企画、日頃の学習成果や個人の特技が光る展示などを、生徒たち自身の力で一から企画し、発表します。企画を掛け持ちする生徒も多く、昼食の時間すら取れないほどの多忙ぶりでしたが、一人ひとりの表情は最後まできらきらと輝いていました。保護者、卒業生、一般の方を合わせて約700名のお客さまにご来場いただき、大盛況。来場者からも感動の声が寄せられ、参加するものにとっても、見るものにとっても思い出に残る1日になりました。



大 学

学生ボランティアグループ「TUVIC」の企画で 常総市水害の復興支援に参加しました。

コミュニティ振興学部ヒューマンサービス学科の学生ボランティアグループ「TUVIC」（顧問・池田幸也教授）が、10月26日と31日の2回の「常総市水害被災地支援活動ボランティアバス」を企画し、学生・教職員64人が参加しました。現地では、泥のかき出し作業や神社の清掃、水害以降閉鎖されていた花木センター営業再開のお手伝いや児童館の再開イベントの参加・支援を行うとともに、地域の方たちとの交流もできました。参加した学生からは、「被災状況を聞き、辛かったが、子どもたちの笑顔が見られてよかった」「人がつながることで、一人ではできない“大きな力”になることを実感した」などの声が聞かれました。TUVICは「これからもボランティアの輪を広げるよう活動していく」と今回の活動の手応えと今後の意気込みを語りました。



大学・短大

大学・短大での日頃の活動を発表する「ときわ祭2015」を開催。

10月24～25日、「ときわ祭2015」を開催しました。今年のテーマは「TOKIWA INNOVATION～2015年 秋のキセキ～」。今年も学生たちの生き生きとした表情が伝わる企画が、来場者を楽しませていました。また、野外ステージでは、ミスときわコンテストやコスプレコンテストなど、学生ならではのプログラムを実施。参加者と来場者が一体となって、ときわ祭を盛り上げました。2日間の来場者数が6,853人と、昨年度よりも約1,000人上回る大盛況のうちに終了しました。

また、「第3回TOKIWA高校生英語プレゼンテーションコンテスト」には県内外の高校から7人の生徒が参加し、国際社会が直面する課題の解決策を英語でプレゼンテーションしました。



智学館

3年次生が、尾瀬の自然を探究する旅へ。学級の団結も深まりました。

9月24～26日の3日間、本校3年次生が尾瀬自然探究旅行を実施しました。この探究旅行では、昨年に続いて足尾環境センター見学や記念植樹をしたり、尾瀬の自然を満喫したりするなど地球市民学のテーマ解決に向けて学びました。探究旅行2～3日目の鳩待峠から大清水までの約20kmの木道歩行は、忘れられない思い出の一つになりました。特に雨が降り続ける中を滑ったり、転んだりしながら宿泊先の尾瀬沼ヒュッテまで声掛け合いながら歩いた8時間の体験は、一人ひとりの心を強くするとともに、学級の団結力を培いました。今後の地球市民学のまとめ発表が楽しみです。



智学館

4年次生が海外研修旅行から帰国。その成果を論文にまとめ発表しました。

10月13日から8日間、本校4年次生がアメリカ東海岸への海外研修旅行へ行ってきました。最初に訪れたニューヨークではリバティ島や国連ビルに加え、貨物線跡地を空中緑道化したハイライン・パークなども見学・散策し、街作りへの思いなど、そこに暮らす人々の気持ちを感じることができました。続いて訪れたボストンではマサチューセッツ工科大学とハーバード大学が共同で設立した医学研究所で日本人研究者の話聞くことができ、得がたい経験ができました。ホームステイではホストファミリーとすてきな時間を過ごし、10月21日に無事帰国しました。



幼稚園

年少組の子どもたちが秋晴れのもと短期大学の先生と学生とさつまいも掘り。豊かな実りを収穫しました。

秋晴れが気持ち良い10月27日、もも・うめ・ふじ組の年少の子どもたちが、短期大学の村上八千世先生、ゼミの学生たちと一緒にさつまいも掘りを行いました。生き生きと茂った緑の葉っぱの長いつるをみんなで引っ張って、小さな両手で土を掘っていくと、少しずつ赤紫のきれいな色のさつまいもが顔を出し、「やったー！ 出てきたー！」とあちらこちらで大歓声があがりました。学生たちの手助けを借りて大小さまざまなさつまいもが、たくさん収穫でき、大豊作でした。



高校

平成27年度 第2回私学教職員研修会を本校で開催しました。

私学教職員研修会は、特色ある私学教育をめざし、教職員の資質向上を目的とし、毎年各校が持ち回りで開催しているものです。今年度は本校が開催校として、8教科の研究授業に加え、Classiを活用した授業や3時限目の全授業も公開しました。研究授業の後の意見交換会も活発に行われ、相互の授業力アップにつながっていくことと思います。また橋本五郎氏（読売新聞特別編集委員、学校法人常盤大学評議員）の講演や全体協議会では「ICT活用についての実態調査」とClassi活用事例の報告を行いました。私学協会をはじめ、県内の私立学校の校長先生ならびに先生方、130名を超える皆さまにご参加いただきました。



大学院

心理臨床センターによる公開講演会を開催。参加者がロールプレイングを行うなど実践的な内容になりました。

10月11日、公開講演会を開催しました。今回講師としてお招きしたのは、文教大学教育学部教授で、臨床心理士、学校心理士スーパーバイザーの会沢信彦氏。テーマは「より良い人生を送るためのカウンセリング」。会場に集まった全員が「心のゲートキーパー」（日常的に人の話に耳を傾けることで、悩みや苦しみを緩和する心の門番）になってもらうことが講演のコンセプトです。参加者がクライアントとカウンセラーの役割を交互に受け持ったり、「自分がちょっと頑張っていること」をテーマにしたロールプレイングを行うなど、実践的な講演会となりました。



高校

本校2年の河野さんと本校ダンス部がそれぞれ善行賞表彰を受けました。

11月11日、茨城県私立中学高等学校保護者会連合会より、よさこいのチームで施設を慰問している本校2年の河野柚美さんと老人施設で定期的にダンスを発表している本校ダンス部51名が善行生徒表彰を受賞しました。



幼稚園

※写真は昨春の様子

花が咲く春を楽しみにチューリップの球根を植えました。

10月22日、年長さんと年少さんがペアになり、園庭の花壇にチューリップの球根を植えました。シャベルで10cmぐらいの穴を掘り、とんがった方を上にして置き、優しく土のお布団をかけてあげます。じょうろでたっぷりのお水をかけたら完了です。12月になって少しツンとした芽が出ているプランターも見られるようになりました。きれいな花が咲き始める春には、子どもたちそれぞれの晴れやかなスタートが待っています。



高校

「クリスマスフェスティバル2015」にご来場ありがとうございました。

12月19日、吹奏楽部・ダンス部・演劇部・書道部(書道パフォーマンス)・合唱同好会・チアリーダーによる合同公演を本校講堂で行いました。各部活とも、部員の創意と工夫と練習の成果をそれぞれのパフォーマンスに精一杯込めて演奏・演技を披露しました。



智学館

空手オーストラリア代表による空手教室を開催。空手の妙技を味わい、国際交流も図りました。

12月3日、空手オーストラリア代表のレイモンド選手とジュリアーノ選手を本校へお招きし、空手の指導をお願いしました。午前中は前期課程生を対象に、ボクシングやラグビーの動きを用いたエクササイズを一緒にを行い、楽しく体を動かすことができました。活動の最後には切れ味鋭い模範演技を見せていただき、世界の技を間近で堪能する貴重な経験ができました。また、放課後には空手同好会を指導していただいたほか、English部と交流する機会も得ることができました。



大学

地域の活性化に学生の活力を生かす「茨城県アイデア提案型インターンシップ促進事業」に本学の学生5人が参加。

アイデア提案型インターンシップ促進事業は県が主催し、県内外の学生たちが8月から9月中旬にかけて約4週間のインターンシップを行うプロジェクト。県北の地域や企業に内在する課題を学生自らが発見し、その解決に向けた企画の提案から運営までを担当する実践的な取り組みです。その成果を発表する「2015年夏の成果報告会」が、10月4日、常陸太田市商工会館で開催されました。国際学部経営学科3年青戸俊憲さんは、ひたち南ドライブインにある(株)飛勲水産でインターンシップを体験し、お客様と店員のコミュニケーションを促進させる「スタッフさんの紹介ボード」などを作成。報告会の会場投票では、最も共感された取り組みに選ばれました。



幼稚園

年長組が親子で一緒に給食を食べました。おいしくて栄養バランスも良いメニューが保護者の方の参考になったようです。

10月8日は年長さくら組、10月15日は年長しらかば組が、親子で一緒に給食をいただきました。メニューは鮭おにぎり・豚汁・レンコンの金平・牛乳・南瓜の白玉団子。保護者の方々のアンケートからは「参考にしながら、お家でも作ってみたいと思います。」という声がたくさん寄せられました。おいしくて栄養バランスが良く、いつも季節の旬の食材を工夫して作ってくださる栄養士の先生方に感謝しながら、これからもできるだけ残さず食べましょう。



高校

本校書道部が茨城交通の路線バスに夢をのせて書き初めをしました。

2016年1月1日、本校書道部が茨城交通の路線バスに書き初めをするイベントに参加しました。今年の文字「夢をのせて走れ水戸」には、これからの人生に夢をのせて、マラソンのように走りぬきたいという思いを込めました。また、第二部では、4m×3.5mの大きさに「飛翔」の文字とともに部員の思いを込めたメッセージを添えた書道パフォーマンスを行いました。この「書き初めバス」は、水戸市内の路線を定期的に走ります。世界に一台しかない「書き初めバス」を見ることができた方は、きっと好運の持ち主に違いありません。

Spotlight

地域や世界で力を試し、さまざまな活動を通して実践的に学ぶ。また、優れた研究成果を社会に発信する。こうした学内外で行われている活発な活動にスポットを当ててご紹介します。

信頼できる仲間と学び、進路をじっくり考えることができました。

智学館ではクラスメイトとの信頼を深めながら、自分らしく学ぶことができました。人を支える職業に就きたいと思うようになったのも、人間関係の中で自分が誰かの支えになれると知ったからです。また、先生との距離もとても近く、何でも相談することができました。先生方はどなたもフレンドリーで、困っていることや心配事を素直に言葉にできる校風があります。進路の相談にも親身に応えてくださり、受験への不安を打ち消す心の支えになりました。大学では放射線に関する専門知識を身につけることはもちろん、サークル活動やボランティアにも積極的に参加し、良い人間関係を築いて、社会に出るための基礎を培いたいと思っています。



大澤 舞 智学館中等教育学校6年次

●進路: 茨城県立医療大学 保健医療学部
放射線技術科学科



藤岡 大地 常磐大学高等学校3年

●進路: 東京電機大学 工学部 機械工学科

高校での3年間を自信に変え、充実した大学生活をめざします。

将来、がれきの撤去などに活用できる災害用ロボットの開発をしたいと考え、機械工学を幅広く学べる大学を選びました。常総市大水害の復旧ボランティアにも参加しましたが、あらためて人ではできない作業があると知り、ロボットの必要性を実感しています。受験に際しては、志望理由書や小論文の添削、模擬面接など、先生方の親身なアドバイスがあって、自分が努力してきたことを飾らず表現できました。特進コースは当初、周囲との学力差に苦労しましたが、先生方の指導のおかげで成績が伸び、それは自信へとつながりました。水泳部の活動との両立もでき、充実した3年間でした。大学でも悔いのないよう、4年間を有意義に過ごすつもりです。

学生、生徒の旅立ちに心からのエールを送ります。

常磐大学や短期大学、常磐大学高校、智学館、それぞれの学び舎で、かけがえのない日々を過ごした学生、生徒たち。皆、夢をかなえるために自らを鍛え、また、教職員や友人たちの中で、学び合い、支え合い、大きな成長を遂げました。次のステージへ歩き出す彼らに、学生生活の思い出と、これからの期待に満ちた生活について聞きました。

Spotlight
01
.....
進学・就職

短大で学んだことを基礎に、より良い保育者をめざします。

1年次の早い時期から実習を経験できるのは、キャンパス内に幼稚園がある常磐短期大学ならではの、登園時や降園時に子どもたちの姿を見るたび、保育者になりたいという意欲を刺激されました。就職活動では志望先選びで迷いましたが、公務員という選択肢を知ったのはキャリア支援センターのアドバイスのおかげです。公務員ならば幼稚園と保育所の異動もあり、多様な経験を積むことができます。公務員試験の対策も先生方にご指導いただき、クリアできました。短大で学んだ幼児教育の知識を基礎として、より良い保育者になれるように学び続けながら、子どもにとって一番良い環境を保護者の方とともに考えていきたいと思っています。



中島 綾菜 常磐短期大学 幼児教育保育学科2年

●進路: 銚田市役所(保育士)



宮本 夏妃 常磐大学 国際学部 経営学科4年

●進路: 株式会社 常陽銀行(総合職)

価値観をはっきりさせたことが就職活動に役立ちました。

高校時代からお金の仕組みに興味を持ち、大学では金融を専門に学びました。文堂先生のゼミで『“金融の力”で女性の活躍を推進～女性活躍応援融資の提案～』を行い、日銀グランプリの優秀賞をいただくなど、企業における女性の活躍について研究したこともあって、就職活動では地元企業で、一生続けられる仕事に就きたいという軸をしっかりと立てて臨むことができました。キャリア支援センターにはエントリーシートの添削などでお世話になり、また、気軽に相談できる友人にも支えられました。卒業後は、まずビジネスマナーや業務の基礎をしっかりと学びながら、大学で得たことを生かして、お客さまの人生設計のサポートをすることが目標です。

生徒一人ひとりが将来について考え、夢を実現するサポートをしています。

井上 圭子 教諭 常磐大学高等学校 進路部



進路・学習支援室に隣接するスタディルームでは、過去問題集で静かに自習したり、先輩の体験談などの閲覧もできます。生徒の選択肢を増やすため、毎週進路ニュースを発行し、なるべく多くの情報を提供しようと心掛けています。

将来の目標が明確であるほど人は努力し、最後には夢をかなえるものです。

本校の進路指導はキャリア教育を重視しています。1年生のときから、自分は何に価値をおき、将来どんな職業を選ぶかを少しずつ考えていきます。進学先も、偏差値やネームバリューではなく、自分の目標に対して、必要な学問が学べる、あるいは資格が取得できるといった視点からの選択を大切にしています。また、目標が定まっていない生徒には、各学期の三者面談を通して、進路相談を促すなど、考えるきっかけを与えています。幸い、新校舎は進路・学習支援室が生徒たちのホームルームの目の前にあり、気軽に立ち寄れるようになりました。受験は、一般入試はもちろん、推薦やAO、それぞれに努力が求められますが、将来と向き合い、目標が明確になれば人は力を発揮するものですし、費やした時間の分だけ、人間的にも成長できます。夢をかなえ、喜びに満ちた表情を見ることを楽しみに、これからも生徒を全力でサポートしてまいります。

Spotlight

03

著書紹介

常磐大学の教員が執筆したさまざまな分野の著書をご紹介します。



① ショパンの楽譜、どの版を選べばいいの?

- ② 岡部 玲子
人間科学部 教授
③ 岡部玲子 著
④ 2015年10月
⑤ ヤマハミュージックメディア

数多くの出版楽譜が存在し、版による違いが顕著なショパンの楽譜。これらにどう向き合い、演奏にどう生かしたらよいのか、専門的な内容をわかりやすく解き明かします。



① スタンダード 臨床心理学

- ② 馬場 久美子
人間科学部 准教授
③ 杉江征・青木佐奈枝 編
④ 2015年8月
⑤ サイエンス社

臨床心理学の基礎から昨今の臨床現場の実情に至るまで、教育・臨床経験豊富な著者陣が幅広く解説しています。図表が多く、臨床心理学を初めて学ぶ方にもお薦めの一冊です。



① 現代中国政治研究ハンドブック

- ② 中岡 まり
国際学部 准教授
③ 高橋伸夫 編著
④ 2015年7月
⑤ 慶應義塾大学出版会

本書は海外を中心としたこれまでの主要な研究とその潮流について、分野別に整理し、問題設定・分析枠組み・今後の研究の方向性を明確に提示した最新の研究ガイドです。



① エスニック・アメリカを問う

- 「多からなる一つ」への多角的アプローチ
② 丸山 悦子
国際学部 助教
③ 「人の移動とアメリカ」研究プロジェクト 編
④ 2015年11月
⑤ 彩流社

米国の人種・エスニシティを研究する執筆者が、日系や中南米系アメリカ人を事例に、歴史、政治、文化の視点で「エスニック・アメリカ」を問い、人の国際移動について考察した本です。



① Victimological Advances in Theory, Policy and Services

- ② Tod Tollefson
国際被害者学研究所 准教授
③ Tod Tollefson 編
④ 2015年7月
⑤ Dumont Printing, Fresno, CA

本書は、19年間常磐大学で教鞭を執られたJohn Dussich教授に敬意を表した記念論文集です。彼の長く多岐にわたる経歴の中、共に貢献した様々な国の著名な被害者学者の論文を収録。



① 人生が豊かになる 色彩心理

- ② 宮田 久美子
キャリア教育学科 教授
③ 宮田久美子 監修
④ 2015年12月
⑤ ナツメ社

身の回りに使われている色の効果、色の知識、色から見える自分の姿、暮らしの中に色を取り入れ、シーンで色を使い分けよう、という若い一般女性対象の色彩心理の本です。



① スタンダード 自己心理学・パーソナリティ心理学

- ② 大内 晶子
幼児教育保育学科 准教授
③ 松井豊・櫻井茂男 編
④ 2015年11月
⑤ サイエンス社

自己心理学・パーソナリティ心理学の最新の知見を集めた、初学者にもわかりやすいテキストです。大内は、第3章「幼児期の自己とパーソナリティの発達」を執筆しました。



① オルフ・シュールヴェルクの研究と実践

- ② 鈴木 範之
幼児教育保育学科 助教
③ 日本オルフ音楽教育研究会 著
④ 2015年7月
⑤ 朝日出版社

本書は、日本オルフ音楽教育研究会により音と動きの教育に関する研究誌として出版されました。カール・オルフに関する文献資料、幼児教育・学校教育・障がい児者教育における指導事例等が多数掲載されています。

① 著書名 ② 氏名・所属・職位 ③ 著者・編者等
④ 発行年月 ⑤ 発行所

大学院・大学・短大

- ★ 卒業式・学位授与式 3/21 (月)
- ★ 入学式 4/3 (日)
- ★ オリエンテーション・ガイダンス
..... 4/4 (月) ~ 4/7 (木)
- ★ 授業開始 4/8 (金)

高校

- ★ 卒業式 3/1 (火)
- ★ 3学期修了式 3/22 (火)
- ★ 1学期始業式 4/6 (水)
- ★ 入学式 4/7 (木)

智学館

- ★ 卒業式 3/2 (水)
- ★ 4学期修了式 3/22 (火)
- ★ 1学期始業式 4/5 (火)
- ★ 入学式 4/6 (水)

幼稚園

- ★ 修了式 3/16 (水)
- ★ 第3学期終業式 3/18 (金)
- ★ 第1学期始業式 4/8 (金)
- ★ 入園式 4/9 (土)

寄付者ご芳名

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。
[2015年9月~12月受け付け分] (敬称略)

■ 諸澤幸雄奨学金制度の創設・充実

企 業	
500,000円	(株)西山工務店*
個 人	
100,000円	稲葉 孝子*
50,000円	横須賀 敬章*
40,000円	小柳 武*、富田 恭平*
20,000円	中村 和彦*
4,000円	坂井 知志*
芳名のみ公表	江原 麻子*、小貫 東里*、菅野 弘久*、関 いつみ*、田邊 正*、久松 雄大*、室谷 直子*、横山 正和*、吉江 森男*
累計金額 93,732,671円	

■ 著作権思想の普及に資する寄付講座の設置

2,000,000円	一般社団法人 日本音楽著作権協会*
------------	-------------------

●複数回お申し込みくださいました方は芳名に*を付しました。

寄付のお願い

諸澤幸雄奨学金募金へ寄付を賜り、誠にありがとうございます。
本学では、諸澤幸雄奨学金制度を創設し、その充実および継続的運営を目的に2009年11月から募金を開始しました。この間、多くの皆さまよりご寄付を賜りました。重ねて御礼申し上げます。
本学では、この制度をより充実させるため、引き続き募金の受け付けをしております。ぜひとも募金の趣旨をご理解いただき、ご寄付を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

★寄付金のお申し込みおよびお問い合わせ

学校法人常磐大学 会計経理課 寄付係

tel: 029-232-2554 e-mail: kifu@tokiwa.ac.jp

*寄付募集の詳細については、ホームページでご覧いただけます。

諸澤幸雄奨学金
奨学生決定のお知らせ

2015年12月に開催した諸澤幸雄奨学金奨学生決定通知書授与式について、以下のとおりご報告いたします。

- 大 学 ... I種奨学生 1名
- 短期大学 ... I種奨学生 1名



● 常磐大学・常磐短期大学

2015年度
海外研修 参加者

2015年度は、総勢25名の常磐大学・常磐短期大学生が、右記の日程で海外研修に参加します。

● 海外研修A (アメリカ)

参加者: 9名

カリフォルニア大学アーバイン校
2016年2月4日~3月5日(31日間)



● 海外研修B (中国語・台湾)

参加者: 5名

国立台北教育大学
2016年2月21日~3月5日(14日間)



● 国際文化研修 (イギリス)

参加者: 11名

チチェスター・カレッジ
2015年8月6日~8月23日(18日間)



アンケート
ご協力の
お願い

- ①印象に残った記事とその理由など
- ②今後、広報誌で取り上げてほしいテーマなど

皆さまからのご意見・ご感想をお寄せください。

*名前、住所、本学との関係(在籍者の場合、所属する学校名)も併せて記載ください。

kikaku@tokiwa.ac.jp 〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1

★お寄せいただいた方の中から、抽選で20名様に常磐大学オリジナルグッズを差し上げます。

